

Shanti Volunteer Association Annual Report 2004



2004年度 2004年1月1日～ 2004年12月31日 年次報告書

2005年度 活動計画

スマトラ地震・津波の被災地で支援に駆けつけた
SVAラオス事務所のスタッフと移動図書館車
(2005年3月 タイ南部バンガー県 撮影:瀬戸正夫)

社団法人 シャンティ国際ボランティア会

ごあいさつ	3
SVAの今後の方向性 活動年表	4・5
2004年度活動報告、2005年度活動方針	6・7
タイ	8・9
カンボジア	10・11
ラオス	12・13
アフガニスタン	14・15
ミャンマー（ビルマ）難民	16・17
緊急救援	18・19
国内活動	20・21
会計報告 決算書、予算書（収入）	22
決算書、予算書（支出）	23
貸借対照表、収支分析	24
組織一覧	25
支援団体	26
参加ネットワーク一覧、特定公益増進法人について	27

An Activity Area

SVAの活動地域



アフガニスタン・妹を連れて文庫に



日本・アジア子ども文化祭



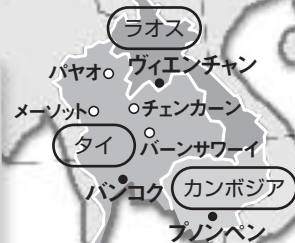
ミャンマー難民・「母の日」に



イラン・幼稚園の遠足



タイ・移動図書館



願いに生きよう



社団法人 シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

会長 松永然道

去る3月28日読売新聞「時代の証言者」のコラムの中で緒方貞子氏は、難民問題と初めて関わったのは1978年であったと書いている。緒方氏は誰でも知っているように、難民高等弁務官として世界中で起こる難民問題解決に長年携わってこられ、日本が誇る国際社会で活躍する第一人者である。SVAもこれまで度々ご指導や助言を頂いてきた。そればかりでなくSVAの前身JSRC（曹洞宗東南アジア難民救済会議）が1980年に発足したのも緒方氏（当時 外務省カンボジア難民調査団団長）の曹洞宗教団に対する呼びかけがきっかけであった。

同コラムの中で氏は、最初に難民の人たちに会った時のことを次のように書いている。「タイの東北250キロの国境地帯に難民キャンプがあって、約3万5000人が暮らしていました。ようやく国境にたどり着き、皆、飢えでふらふらなのです。それでも子どもたちは缶けりなどして遊びまわっていました」と。全く同じ光景を今は亡きSVA生みの親である有馬実成師も私たちも見てしまった。その時の強い印象が難民の子どもたちへの支援を考えさせ、子どもたちへの教育支援へと進んでいった。

永平寺の105歳になる宮崎奕保禅師は今でも修行僧と同じように毎朝坐禅修行を続けている。「修行には終りが無い」といつも言われる。教育も同じである。教える側も教えられる側も共に学び合う修行の一つである。有馬実成師が嘗て教育は訓練であり、繰り返しである、と言っていた。まさに、知識を得ること、そして知恵を育てて行くことは人間の特権であり、生きていくことそのものである。

25周年を迎えた今もなお、SVAは相変わらず子どもたちを中心にした教育支援活動「人作り」の支援を続けている。もちろん長く続いた活動だけが良いとはいえない。「共に生き、共に学ぶ」という私たちの願いはいつの世にあっても、変わりなき人間としての願いと信じている。SVAの出発点は正しかったと思う。

今、この四半世紀を振り返ると、地球は大きな節目を迎えていると感じる。環境問題、引き続く天災、テロや民族紛争が続いている。地球滅亡が近づき、驕れる人類に「目覚めよ」と呼びかけているようにも思える。SVAの掲げる「共に生き、共に学ぶ」精神を私たちは今こそ声を大にして主張しなければならない。罰が下されつつあるのかもしれない。しかもその矢面に立つのはいつも無辜の人たちであるように見える。しかし、諦めてはならない。未来を信じ今ある私たちの務めを子どもたちと共に、弛まず歩むことがSVAの生き方である。

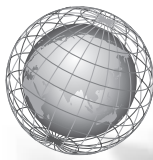
発足25周年を記念して、今年は世界遺産のアンコールワットで「アジア子ども文化祭」を催すことになった。アジアの隅からたとえ小さくとも光を発してゆこう。



ラオス・ホントン小学校 4年生の教室



カンボジア・木陰で読書



SVAの今後の方向性—25周年を迎えて

2005年、SVAは活動開始以来25周年を迎える。カンボジア難民支援を契機に活動を開始し、その後もアジアの教育・文化の支援に関わり、支援の国や地域も拡大してきた。特に図書館活動を中心としたSVAの支援の形は、他のNGOにあまり類を見ない活動である。一方日本国内においては、日本の文化や社会に合った日本型のNGOとして形成していくことを目指して試行錯誤を続けてきた。

25周年を迎えるにあたり、あらためてSVAの特徴を確認しながら今後の進むべき方向としていきたい。

1. SVAの特徴は 人づくりの支援である

SVAの特徴は、学校建設などのハードの支援とともに、図書館ワークショップなどのソフトの支援を行えるNGOであるという点にある。このソフトの

部分が、SVAの特徴であり、長所ともいべきことである。箱物を建てて終わりの援助が多い中で、建てた後もフォローする、いわば仏像に魂を入れる、人づくりの支援をするということである。

そして、この特徴をいかに日本の社会に伝えていくのか、理解を求めているのが重要な事である。しかし、これまでの国内での広報や様々な活動において、この人づくりの支援の重要性を十分に説いてきたとはいいがたい。とかく理解しやすい説明の仕方に力が注がれ、SVAが本当に実施したい活動の意義に力を込めてアピールしてこなかった。

SVAは、新たに活動に共鳴、協賛して共に活動を担う仲間をさらに増やしていかなければならない。ここでは、このSVAの特長を前面に押し出していく。また、様々な機会を捕らえて「SVAの支援は人づくり」であることをアピールしていきたい。

2. 始めた支援は事業が 現地に根付くまで関わる

1980年、SVAのカンボジア難民キャンプでの活動は全くの素人からのスタートだった。経験も技術もなく、どんな支援をするかは、難民自身と、協力してくれるタイの人々との話し合いの中で決めてきた。経験豊かな欧米の団体が、緊急性がなくなり、アフリカに新たな難民が発生するや次々とカンボジア難民キャンプを去って行く中で、SVAは難民が本国へ帰還し、キャンプが閉鎖されるまで活動を継続してきた。さらに、難民が本国に帰還した後も、長期的な視点から教育や文化面での開発協力に関わり、タイ、カンボジア、ラオス、そしてミャンマー難民キャンプやアフガニスタンにおいて、活動を実施してきた。

日本の支援者からは「いつまでやるのか」といわれ続けながら、「そこに

ありがとう!25年~SVAは創立25周年を迎えました

SVAの歩み

1980年 SVAの前身、曹洞宗東南アジア難民救済会議（JSRC）設立、カンボジア難民支援として図書館活動を開始。
タイ事務所（バンコク）開設。

1981年 JSRCのボランティアが曹洞宗ボランティア会（SVA）を結成。

1983年 カンボジア難民への「慈愛の衣類を贈る運動」、日本各地で展開。

1984年 初の開発事業がタイ・スリン県バーンサワイ村で始まる。

1985年 タイのラオス難民キャンプで印刷活動開始。
タイ・チェンカーン、バンコク・スアンブルースラムで図書館活動開始。
「クラフト・エイド」始まる。

1989年 タイ・バンコクのクロントイスラムに職業訓練センター開設。

1991年 カンボジア事務所（プノンペン）開設。
タイにSVAの現地法人シーカー・アジア財団を設立。

1992年 ラオス事務所（ヴィエンチャン）開設。

「曹洞宗国際ボランティア会」と改称。

1995年 阪神淡路大震災支援活動開始。

1997年 北朝鮮食糧支援。

1999年 「社団法人シャンティ国際ボランティア会」となる。
トルコ大震災救援、台湾大震災救援。
「絵本を届ける運動」開始。

2000年 ミャンマー（ビルマ）難民支援開始。
有馬実成元専務理事逝去。

2001年 インド西部大地震救援。
アフガニスタン食糧支援。

2002年 佐々木主浩投手、SVA国際ボランティア親善大使就任。

2003年 アフガニスタン事務所（ジャララバード）開設。
有馬実成著『地球寂静』出版。

受賞歴 正力松太郎賞（84年）、ソロブチミスト日本財団賞（85年）、外務大臣賞（88年）、毎日国際交流賞（94年）、豊島区感謝状（95年）、防災担当大臣賞（04年）

苦しむ人々がいる限り帰るわけにはいかない」として活動してきたのがこれまでの歴史である。

困難な人々の側に身を置いて、共に考え共にその困難を乗り越えようとする姿勢こそ、SVAの特徴と言えよう。災害時の緊急救援活動は別にしても、始めた支援は、現地カウンターパートや現地スタッフが事業の運営や管理業務などを担い、各事業が現地に根付き、支援の必要性がなくなるまで関わるべきだと考える。

当然ながら、そのためには充分な調査と準備のもと、明確な目標を持って活動をスタートさせ、定期的に活動の評価を行いながら実行していくことが重要である。我々の使命は、現地の人々が自分たちで問題を解決することができるための支援、いわば自立の支援であることも同時に確認しておきたい。

3. 地域を活性化させる国内運動を行うNGO

日本のNGOの中でのSVAの特徴は、国際協力NGOでありながら、同時に国

内に運動をもっているという点であろう。現在進めている「絵本を届ける運動」、「絵本コンクール」、「クラフト・エイド」、「リサイクル・ブック・エイド」、「防災寺子屋」などの運動は、「共に生き、共に学ぶ」理念に則った国内運動の展開である。この中で、各地の個人のみならず、労働団体、企業、学校など多方面の人々とつながることによって新しい地域運動の形が徐々にではあるが作られつつある。さらに、海外だけではなく国内の災害救援活動を実施する中で、日本各地のボランティア団体とのネットワークも広がっている。

また、SVAの特徴は、全国の宗教団体や寺院との強いパイプを持っている点にもある。SVAは地方発信型のNGOをめざす。この国を変えるためには地方を変えていかなければならない。その方法として、各地の団体、企業、個人とともに全国各地の寺院や宗教団体と提携しながら、地域を活性化し、地域から発信していこうということである。

4. SVAの思想を明確にしてい

SVAのもう一つの特徴は、しっかりした思想をもったNGOであるという点である。それは、「共に生き、共に学ぶ」という基本理念や、「心の平安に根ざした社会の平和をめざす」という『シャンティ』の団体名にも表現されている。

今世界では、イラクやパレスチナをはじめ、各地で不安定な情勢が続いている。他との相異性を認め合わない限り根本的な解決は望めない。また、アジアの各地でも経済格差の拡大による貧困問題、紛争や災害により困難な生活を強いられる人々が存在する。このような状況の中、SVAが「お互いがかけがえのない存在である」という認識と、慈愛と寛容の上にもみ可能となる地球市民社会の実現」を目指して行動することは、問題解決の一つの方向性を示すものである。25周年にあたり、改めてSVAの思想を明確にし、その使命を自覚していきたい。

2005年1月

2004年の活動

- 1月 手束耕治に代り、新事務局長に茅野俊幸就任。03年12月に起きたイラン南東部地震の救援活動開始。「ミャンマー難民に冬物衣類を送る運動」のモニタリングツアー実施。
- 2月 2003年度に集まった「絵本を届ける運動」絵本12,368冊がラオス、カンボジアに向け船積み。ラオスにて「僧侶スタディツアー」実施。
- 3月 アフガニスタン、SVA第1号の小学校校舎完成。2004年度通常総会開催
- 4月 タイ・スアンプルースラム火災—図書館、保育園も焼失。カンボジア、タイ国境の新事業地バンティミンチェイ州での活動開始。
- 5月 ミャンマー難民—タムヒンキャンプにて図書館が開館（21館目）。タイ、奨学金授与式。
- 6月 ラオス・ルアンパバーンの県立図書館完成。九州地区「会員の集い」開催。
- 7月 イラン南東部地震救援活動終了。「絵本を届ける運動」ラオス交流体験ツアー実施。新潟、福井豪雨災害支援にスタッフを派遣。
- 8月 阪神淡路大震災「タイムカプセル」掘り起こし。第1回「SVA絵本コンクール」入賞者発表。
- 10月 「アジア子ども文化祭」、キャンプ・公演を東京にて開催。ラオス、移動図書館車が完成。兵庫県豊岡市水害救援活動。新潟中越地震救援活動。
- 12月 通常代議員会開催。SVAの日「阪神淡路大震災から10年を振り返る集い」開催。スマトラ沖大地震・津波、緊急救援開始。



2004年度活動報告 2005年度活動計画

事務局長 茅野 俊幸

2004年度は、相次いだ自然災害の発生に伴って、緊急救援に多くの精力を注いだ年でした。2003年末に発生したイラン南東部地震に始まり、新潟・福井水害、兵庫県豊岡水害、新潟中越地震支援。そして、昨年12月に発生したスマトラ沖地震津波被害への支援活動は現在も継続的に取り組んでいます。

海外事業においては、将来的に現地スタッフだけで事業を担える方向をめざして、事業評価の強化や実務能力の向上をはかるなど、人材育成に力を注ぎ、一定の成果を上げることができました。今後の課題は資金調達のあり方にあります。公的機関の補助金システムが変更になったことで、財政面に大きな影響が及び、従来の資金調達の方法の見直しが迫られています。また、国内事業においては、新規事業として「絵本コンクール」の開催や、日本テレビ放送網文化事業団との共催による「アジ

ア子ども文化祭」の開催など、新機軸へのチャレンジの年でもありました。

(国内活動20、21ページ参照)

また、会の運営体制においても進展が見られました。各理事が海外事業、国内事業、緊急救援、宗教法人関連など、それぞれの部門を担当し、各事業について積極的に検討や議論を重ね、理事の合宿も実施して、事務局と共に、「SVAの方向性」について協議することもできました。

さて、こうして迎えた2005年は、会の発足25周年目となります。これまで蓄積してきた知恵や技術を大切に、時代の変化に呼応したSVAらしい活動を推進すべく、4本柱から成る「SVAの今後の方向性」(前ページ参照)を掲げ、これを指針として活動してまいります。

振り返れば、当会は、25年前のカンボジア難民救援活動に端を発します。

「困窮する難民たちを座視できない」と行動した一人ひとりが、やがて、「多くの人々に呼びかけて、運動を起こしてゆこう」と立ち上がって誕生したのがSVAという組織でした。そして、「ボランティアは主役なのではなく、＜ヒト＞＜モノ＞＜コト＞を融合させる触媒であり、黒子であらねばならない」と、日本的なNGOを模索し、その試行錯誤の体験から体得したのが、「共に生き、共に学ぶ」という精神でした。それを基軸として、私たちは25年間、アジアにおける教育・文化の支援活動を継続してまいりました。お陰様で、国内においても、個人や団体を含めて、多くの方々が共鳴してくださり、私たちの活動を支えてくださるようになりました。その存在そのものがSVAの貴重な歴史的財産でもあります。



81年カンボジア難民キャンプ(カオイダン)



81年カンボジア難民キャンプ(カオイダン)の図書館

日本社会においてもNGO活動やNPO活動が少しずつ認知されるようになった近年、SVAの組織内においても、会の方向性、組織運営、事業評価、協力・支援者の拡大、職員の人材育成、法的な説明責任などの実務能力の向上に努めてまいりました。しかし、協力者の皆さまとの相互理解や意志疎通への努力が足りず、さらなる協力・支援者の裾野を広げられずにいる現状もあります。組織として反省すべき点と考えております。

NGO活動は手段であり、決して到達点ではありません。私たちSVAがめざすNGO活動とは、海外の現場においては、そこに住む人々のアイデンティティや文化・教育を尊重し、お互いに学び合い、その中から見出される課題の解決に向けて事業を展開することにあ

ります。日本国内においては、地域社会に生きる人々が、アジアの人々の知恵に学び、共通の課題を発見し、悩み、考え、行動できる場を生み出してゆくことにあります。さらには、災害復旧や社会教育を通じて生じる「個々の気づき」を、さらに大きな運動や感動の輪に広げてゆく、つなぎ役としての役割を果たしてゆくことです。それがSVAらしいNGO活動であると考えています。

2005年は、SVAが活動を開始して25周年にあたります。これを機に、私たちは、前述のような私たちの拠って立つ「精神的基軸」を確認し、通常の海外活動や国内外災害への緊急救援の強化を図ります。同時に協力・支援者の拡大、とくに、25周年を記念する事業として「チャイルド・ブック・サポーター」、「愛・地球博（愛知万博）」

への参加、「絵本コンクール」、「アジア子ども文化祭(アンコールワット開催)」に取り組んで参りたいと思います。これらの事業を通して、一人ひとりのポジティブ・マインドの輪を広げられるように努力してまいります。

これらを推進する事務局の体制としては、国内事業1課と2課を国内事業課として統合し、さらに各課の事業が横断的に連携できるように工夫いたしました。事務局を担う者たちが、常日頃から、多くの人と出会い、人や情報をつなぐ「黒子」となって感動の種を蒔いて、「運動体から感動体」を生み出せるように努力してまいりたいと思います。そして、2005年度に改選された理事役員・代議員とともに、事務局と理事会が連携し合い、厳しく切磋琢磨、協力し、真にSVAらしい活動を探究してまいりたいと思っております。



「絵本を届ける運動」ポスター



SVAは7月1日から31日まで7-Dに出展いたします



絵本コンクール募集要項



タイ Thailand

概要

2004年は、タクシン政権の最終年にあたり、過去4年間の成果が問われる年となった。5月にはバンコクで地下鉄が開通し、経済成長に自信を見せたが、一方で、南タイのヤラー、パタニー、ナラティワート各県において一部のイスラム教徒と政府の衝突が激化し、多数の死傷者が出てタクシン首相の強硬姿勢を懸念する声が高まった。特に、首都バンコクでは、9月に都知事選挙が行なわれたが、野党民主党候補が勝つなど、都市部ではやや人気にかげりが出てきたかにみえた。しかし、12月26日に発生したスマトラ沖巨大地震によるタイ南部の津波被害では、迅速な対応が評価され、今年2月の下院総選挙では、タイ愛国党の圧勝でタクシン政権が再選されるに至った。

海外からの援助にはなるべく頼らないという姿勢を貫いているタクシン政権であるが、SVAは2004年度も政府支援が届きにくいところを重点的に支援

した。従来から継続している図書館活動や奨学金支援の強化に加え、特に4月に発生したバンコクのスアンプルー・スラム火災への対応と、12月のパンガー県における津波被害への支援活動は、事務所全体をあげて対応している。また、現地法人シーカー・アジア財団のタイ人スタッフのための日本での研修も、これまで以上に内容の充実に努めた。2005年度は、引き続き、パンガー県での津波被害の復旧・復興とスアンプルー・スラムの復興支援、さらには、図書館、奨学金、学生寮、研修・交流事業を中心に、事業の点から面への展開と、丁寧な情報発信を行っていききたい。

図書館事業

2004年度は、「おはなし」を中心とする保育士向けの事業展開と保育者とのネットワーク化促進に力を入れ始めた。まずは、これまでの活動地域であるバンコクの都市スラム、山岳少数民族の人々が多く居住する北部のパヤオ、そして東北部の貧困農村地域であるル

ーイ県とスリン県において、活動を深めた。具体的には、従来の常設図書館サービスに加え、保育士研修会を4回開催し、210名の保育士や図書館関係者に対して研修を行なった。また、常設図書館と移動図書館活動においては、9万人の受益者を記録した。

2005年度は、これまでの図書館活動の対象地域を広げ、「おはなし」を中心とする保育士向けの人材育成事業を、バンコク、パヤオ、スリン、ルーイ各県と新たにチェンマイ県でも展開し、幼児教育の向上のためのネットワーク化の促進に取り組んでいく。また、緊急救援から復旧・復興の段階である南タイ・パンガー県の津波被害にあった漁村や周辺の小学校に対する図書館活動を実施し、これまでに各地で実施してきた図書館活動のノウハウを移転させていく計画である。

アジア教育奨学金事業(※表1:参照)

アジア教育奨学金の支給について、申し込み数の増加が近年際立っている

表1: 2004年度 奨学金支給対象者

()内=女性の数

活動地域	中学生	高校生	大学/専門	合計
バンコク	67 (38)	31 (23)	2 (2)	100 (63)
スリン	67 (50)	50 (33)	3 (2)	120 (85)
ルーイ	55 (32)	51 (38)	3 (1)	109 (71)
パヤオ	45 (33)	51 (30)	15 (6)	111 (69)
合計	234 (153)	183 (124)	23 (11)	440 (288)

表2: 各寮の学生数

()内=女性の数

活動地域	名称	中学生	高校生	合計
ルーイ	チェンカーン学生寮(メコン青年の家)	19 (19)	9 (9)	28 (28)
パヤオ	シャンティ学生寮	34 (27)	14 (4)	48 (31)
合計		53 (46)	23 (13)	76 (59)



移動図書館活動(バンコク)

ことから、2004年度は増員する方向で進めた。前年度は352名の子どもたちを対象に支給したが、2004年度は440名であった。バンコクのスラム、北部の少数山岳民族の村、東北部の農村を対象に実施した実績は、下記の表の通りであった。また、2004年11月には、初めての試みとして支援者向けの視察ツアーを実施し、4名の参加者があった。また、事業管理システムの改善を図り、効果があった。2005年度も、引き続き、同数程度の子どもたちを対象に支給を予定しているほか、視察ツアーの実施も計画している。

中高生学生寮（※表2:参照）

2004年度も、前年度に続きパヤオ県と、ルーイ県チェンカーン郡の遠隔地に住んでおり経済的貧困が理由で学校に通えない中高生を対象に活動を実施した。実績については、下記の表を参照されたい。チェンカーンについては、前年度にプロジェクトYの協力を得て開設した農園が活動し始め、交流活動が行

われた。2005年度については、これまで女子生徒を中心に預かっていたチェンカーンで男子生徒を受け入れる予定で、それぞれの寮に附属する農地を充分活用して研修交流事業にも取り組んでいきたい。

研修・交流事業

前年度はSARSや鳥インフルエンザで減少した訪問者が、徐々に回復した状況であった。年間で約170件、約950人の訪問を受け入れた。主に大学生を対象とした研修制度については、2004年度は4名が参加した。また、地域活動団体からの派遣ボランティア1名を受け入れた。さらに、2004年10月には東京で開催されたアジア子ども文化祭・国際交流キャンプに参加し、同月、タイのspanburi県でも小規模だが第9回アジア子ども文化祭を開催した。タイでの文化祭には、ミャンマー、ラオスから子どもたちを招聘したほか、在タイの日本人、フィリピン人、インドネシア人なども参加した。2005年度は、

タイではアジア子ども文化祭を開催せず、カンボジアで開催予定の第10回記念の文化祭に参加予定である。

職業訓練事業 （シーカー・アジア財団の単独事業）

2004年度も従来から実施している印刷事業と、縫製・クラフト製作等に関する事業を授産所的に実施した。2005年度についても、タイ国内での受注を促進させ、印刷・出版物やクラフトの質的向上と、マーケティングの充実を図っていく予定である。

コミュニティ支援事業 （シーカー・アジア財団の単独事業）

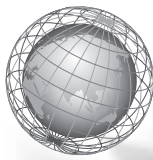
前年度に引き続き、リサイクル石鹸事業の一環で始めた環境石鹸づくりを実施した。研修会を33回開催し、固形石けん12,579個、粉石けん1,150Kgを生産した。



保育士研修会（パヤオ）



農園での昼食（チェンカーン学生寮）



カンボジア Cambodia

概要

2004年、カンボジア王国は総選挙の1年後に新政府が発足、またシハモニ国王が即位して社会的には安定してきた。国道や州道の整備も進み、地方との交通網も整備されてきたが、都市と地方の格差、貧富の差はますます広がっているようである。

カンボジア事務所は、カンボジア人スタッフが国際的に通用するように目指した3ヶ年計画の人材育成の最終年度であったが、所内会議を英語で進行する等の成果が現れ、国際会議でも活躍することができた。また図書館事業を新たにバンテイミンチェイ州で開始するに伴い、同地に事務所を新設した。

2005年度は、文化支援事業の評価を実施する予定である。プノンペン市内スラムでのコミュニティースクール支援は、フォーマル教育のみならず、ノン・フォーマル教育にも支援をおこなう。事務所の経理システムは一層の改良を

目指し、さらに人材育成基金によるカンボジア人スタッフの研修についても具体的に計画を立案する。また、12月には、アジア子ども文化祭をカンボジアのアンコールワットで初開催する。

基礎教育支援事業

(1)図書館事業

2004年度より、コンボントム州とバンテイミンチェイ州にて活動を開始。バンテイミンチェイ州はJICAの草の根技術支援事業「図書館事業を通じた初等教育の質改善事業」を開始し、同所に事務所を開設した。上記2州とバタンバン州とにおいては、現職図書館員対象の「おはなしと図書館活動に関する研修会」を7回開催、416人が参加した。研修会を通じて、293の小学校や機関に当会出版の絵本13,949冊、「絵本を届ける運動」の絵本13,002冊、紙芝居1,279部、その他の本4091冊、移動図書館160セット、紙芝居舞台149セット、謄写版158セットの配布を行なった。

図書館員育成が終了したスヴァイリエン州、プーサット州、コンボンチュナン州では事業評価を行ない、さらに、タケオ州、コンボンチュナン州、カンポート州で小学校教員養成学校の学生を対象に研修会を開き562人が参加した。カンボジアの民話絵本出版事業は、クメール語絵本5タイトルと紙芝居2タイトルを出版、さらに絵本2タイトルの増刷を行なった。（絵本新刊、増刷とも各3,000部、紙芝居各350部）。

その他、恒例の全国おはなし大会を開催、移動図書館活動も実施した。

2005年は、研修会や出版事業を継続、クメール語絵本、紙芝居、再版絵本計10タイトルを出版、さらに民話の収集を行なう。バンテイミンチェイ州、コンボントム州の州教育局から選出された教員研修会講師を養成する研修会を実施、同2州でモデル図書館を建設予定である。



「絵本を届ける運動」で配布された絵本



図書館での読み聞かせ会

(2) 学校建設事業

2004年度より、コンボントム州でも活動に着手。同州とカンポット州、コンボンチュナン州で5教室校舎4棟、3教室校舎8棟を建設。いずれも、資機材の改良、校舎補強の鉄筋コンクリート増量、車椅子用スロープの設置など質の改善を実施した。また、いずれの学校でも、校舎建設と合わせてトイレ・井戸を設置、児童・教員を対象に「トイレ利用と衛生に関する講習会」を実施した。

1991年～2000年に建設した校舎の評価作業を完了（民間支援者分のみ。2001年分は評価済み）。2002年度の建設校についての1回目モニタリングを実施、報告書を支援者に提出した。

2005年度は、コンボントム州を中心に、カンポット州元クメールルージュ支配地域をも対象地とし、5教室校舎5棟、3教室校舎9棟、計14棟の建設を予定。さらにバンテイミンチェイ州を事前調査する予定。トイレは雨水を集める配水パイプを設置する等より機能的に改

良する。新たに、学校運営の能力強化をはかるため、校長と学校支援委員会代表が参加する他校への視察研修会を実施する。

(3) 「アジア子どもの家」事業

カンボジア唯一の幼稚園教諭養成学校付属幼稚園で141人の幼児を受け入れた。常設図書室の利用者数は3,326人、移動図書館はプノンペン市内のスラム地域や幼稚園など26ヶ所で実施、2,467人が参加した。幼稚園教諭養成学校の学生100人を訓練生として受け入れた。

2005年度は、継続して「アジア子どもの家」、幼稚園教諭養成学校の支援を行なう。新規事業としてプノンペン市内バサック・スラムにあるコミュニティスクールに通っている貧困層の児童、孤児約120人を対象とした教育文化支援事業を開始する。

文化支援事業

州宗教局並びに僧侶責任者を対象に

した「寺院のマネジメント強化とグッドガバナンスのためのセミナー」をプレイベン州（参加者30名）、プーサット州（参加者25名）で開催、「トリピタカ（南伝大蔵経）セミナー」をコンボンチャム州で開催、256名が参加した。図書出版は、3タイトル計15,000冊を出版、全国へ配布した。また、スヴァイリエン州の寺院調査を実施した。

2005年度は、仏教・カンボジア文化に関する書物の復刻出版と配布を継続し、以前配布を行なった寺院の調査を予定。クラチェ州にて仏教と社会開発セミナー、コンボントム州にて寺院のマネジメント強化セミナー、仏教教育全国評価会議を開催予定。2州にて寺院と社会活動の調査予定。

人材育成事業

2003年で支援を終了した日本・カンボジア友好職業訓練センターに対しては、活動に対する助言協力を継続している。



新しい校舎（コンボントム州）



伝統楽器の練習（アジア子どもの家）



ラオス Laos

概要

ラオスは2004年11月にASEANサミットを-host国として開催し、特に首都ヴィエンチャンにおいてインフラ整備が進んだ。また、車・バイク・携帯電話の数は著しく増加しており、経済活動の進展と共にストリートチルドレン、物乞い、ゴミ漁りをする子どもたちも増えている。貧富の格差、都市と農村の格差が広がりつつある。一方で政府歳入は依然として予算を達成することができず、教育や文化の分野に配分される予算は相変わらず非常に少ない。教育分野に配分される予算は政府目標の11%に達せず、8%程度であり周辺諸国と比べても低い割合となっている。

2004年度、ラオス事務所ではラオス人コーディネーター中心の組織運営に移行しつつあり、ラオス人スタッフが企画運営する活動がさらに増えた。事

業内容も、県立図書館の建設や移動図書館車の導入など、他団体がほとんどやっていない独自の分野に経験を蓄積しており、ラオスにおける社会的な認知度を高めることができた。今後さらに、各事業の専門性を高め、常にラオスの社会の変化を捉え、支援者と共に新しい活動を創り出していく体制ができてきたともいえよう。2005年度はラオス政府とのMOU（事業覚書）の更新に当たり、今後3年間の事業の方針、計画を明確にする。

図書館と青少年事業

2004年度はルアンパバーン県立図書館の改修を行い、明るいコミュニティ図書館としてオープンし、子どもから青少年、学生、成人まで幅広い層に利用されている。これは、サワナケート県に続く2県目の県立図書館支援である。ヴィエンチャンでは、移動図書

館車を導入したが、この車には、図書だけでなく音響機器やビデオなども積載しており、さまざまな活動に対応することができるようになった。図書館はルアンパバーン県の学校群（スクールクラスター）を対象に90箱が配布された。

2005年度はラオスで3県目となるヴィエンチャン市立図書館ともう一県の県立図書館建設を行う。JICA草の根パートナー事業を活用した「公共図書館支援を通じた図書読書活動普及事業」を開始する。また、移動図書館車を使っ

アジア子どもの家事業

2004年度も今までとほぼ同様の活動を行うことができた。この「子どもの家」で勉強したり、伝統文化を習ってきた多くの子どもたちの中から、さまざまな分野で国を代表する学生やリ



移動図書館車



アジア子どもの家図書館

ダーが生まれつつある。また、ヴィエンチャンにある「子どもの家」の活動がモデルとなって、各県に「子ども文化センター（CCC）」が建設されており、現在全国19ヶ所で展開するまでになった。2005年度は、子どもの家事業カウンターパートであるヴィエンチャンの「子ども文化センター（CCC）」自体の自立的運営を促進するよう支援していく。

学校建設と村ぐるみの教育改善事業

2004年度はボリカムサイ県の2ヶ所の学校群において、小学校教育改善、読書推進図書館活動、幼児教育、学校建設など統合的な教育事業として小学校建設1校、小学校修復1校、幼稚園建設1校、トイレ建設1棟を住民参加型で行った。

2005年はボリカムサイ県で2ヶ所、サラワン県で2ヶ所の計4ヶ所の学校群で、学校建設、教員研修、図書館活動、父

母会の結成からなる統合的な教育支援活動を実施する。さらに、それぞれの学校群の中心校には、図書室と教材開発室からなるリソース・センターを建設する。

初等教育教材開発事業

謄写版は、2003年度にすべての製作配布を終了したが、政府とのMOUに基づき、かつての地方工場のフォローアップやメンテナンス、研修活動を継続した。以前製作した「ラオス語アルファベット表」「ラオス地図」に続き、「英語アルファベット表」と「掛け算の九九表」を布にシルクスクリーン印刷した教材を新たに開発し、ルアンパバーン県全小学校に配布した。

政府との契約上の最終年にあたる2005年度は、謄写版の利用が持続的に行われるように工夫をしながら、本事業を終了させる。謄写版の備品、修理

機材などを地方の県に提供し、シルクスクリーンを使った教材を製作、配布する。

国際交流・セミナー

2004年度は、SVA海外事務所相互のスタッフの交流を実施する事ができた。6月にはアフガニスタン事務所の図書館スタッフ1名、9月にはミャンマー（ビルマ）難民事業事務所の図書館スタッフ全員（11名）の研修を受け入れた。各事務所間の交流は、経験の交流が図られると共に、SVAスタッフとしての連帯感と使命の共有にもつながるので、今後とも積極的に実施したい。

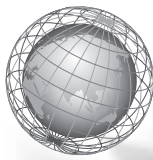
ラオス事務所への訪問者を28グループ280人迎え、研修生を4名受け入れた。



ボリカムサイ県ホントン小学校外観



改築されたルアンパバーン県立図書館



アフガニスタン Afghanistan

概要

2004年度は復興支援事業の2年目であり、事業を軌道にのせることが出来た。ただし、6月の国際NGOスタッフ殺害事件、10月の国連職員誘拐事件など、たびたびの治安悪化により現場訪問が制限され、事業の進捗に遅れをきたした。また、10月の大統領選では、活動を休止し日本人スタッフは国外退去するなどの対策を講じた。「安全・退避指針」を作成し、東京事務所と連携して、安全面の確保を強化した。同時に、関係省庁、国際機関等と協力関係を構築することは、安全確保の面でも重要であるが中央省庁との関係構築は地理的な問題からも困難であった。また、スタッフの海外研修と語学研修、事業課スタッフによる計画会議など、現地スタッフによる事業展開とスタッフ育成にも力をいれた。

2005年度は、第1フェーズ（3ヵ年計

画）の最終年度であり、事業の評価を行うと共に、第2フェーズの実施の協議をする。引き続き、アフガニスタン人スタッフの育成に力を入れる。またカブールに連絡事務所を設置し常駐スタッフを置き、関係省庁、国際機関等との協力関係の強化を図る。

初等教育改善事業 (ナンガハール州)

(1)図書館事業

図書館活動は、ナンガハール州ではまだ新しい分野であり、文化的・政治的な配慮を常に行い、まずは、教員やコミュニティとの信頼関係を構築することが重要であった。移行政権下で、絵本出版の出版許可取得の管轄省庁が不明であったり、印刷等をパキスタンで行うなど大変な面もあったが、絵本の質は確実に向上している。また、当初は絵本をどのように扱ってよいかわからなかった子どもたちが、積極的に読み聞かせを行うなどして図書館活動

に参加している。学校でも、教員が体育や国語の時間を利用して、読み聞かせを行うようになった。今後、さらに図書館スタッフの能力強化が必須であり、時間がかかることが予想される。他国のSVAの図書館事業などとも連携を取りながら、能力強化を図っていく。

① **絵本出版**：2004年度、アフガニスタン東部地区の民話から絵本にふさわしい8タイトル（各千冊）を選び、パシュトゥン語の絵本を出版した。2005年度は絵本8タイトル、紙芝居を2タイトル出版する。

② **教員研修会**：2004年度、ジャララバード市、ゴシュタ郡、ダライヌール郡、バティコット郡、ラルプール郡の24校で3日間の図書館活動に関する教員研修会を実施した。終了後、図書館を寄贈した。研修会に際しては州教育局より3名の教員が派遣された。2005年度は、24校で研修会を実施する。

③ **移動図書館活動**：研修会の対象校と同じ24校で1～2ヶ月に一度、図書館を



絵本出版委員会



教員ワークショップ

持参し、読み聞かせを行った。2005年度についても24校で実施する。

④ **学校図書室設置**：SVAが学校建設を実施した4校に本（各校300冊）を配布した。

2005年度は4校に図書室を設置し、各校700冊の本を配布する。

⑤ **コミュニティ文庫**：絵本閲覧を始め、識字学級、イベントを実施。州情報文化局からも職員が派遣された。また12月末には従来より広い場所に移転した。

(2) 学校建設事業

建設業者に委託せず、独自の学校建設チームを組織して、事業地の選定、設計、施工及び施工管理など一貫した事業管理を行ない、学校建設を実施した。教育省、州教育局とも連携し、地元のコミュニティからは土地の提供、安全確保や労働者確保などの協力を得て、住民参加型の学校建設を行った。一つの校舎は、12教室と図書室の計13室からなる。建設が遅れていた2003年度建

設分2校に加えて、2004年度建設予定校4校のうち2校の建設が終了した。残り2校については2004年11月から建設開始した。校舎を建設した学校では、校舎修繕と衛生（トイレ使用）の研修会も実施した。またこれらの学校には、学校図書室を設置し、移動図書箱活動、教員の図書館活動研修会を実施した。教員たちは図書室の使用方法にはまだ戸惑いがあるものの、授業では積極的にSVAの出版絵本の読み聞かせが行われている。

2005年度は、さらに4校を同様の方法で建設する予定である。

ストリートチルドレン支援事業 (パキスタン・ペシャワール)

パキスタン・ペシャワール市内のボード市場にアフガニスタン難民の子どもを支援するアフガニスタン子どもセンター（Afghanistan Children Center）を設置し2003年7月より運営していたが、04年より、ネジャットセンターに運営

を移管し、SVAは、資金提供と図書館活動運営の研修を実施した。登録している子どもの数は、100人。識字学級、文化活動、図書室の運営に加えて、健康診断を実践した。

ペシャワールでは難民帰還が進み、事業活動地域の環境にも変化が見られた。このような変化に伴い、2005年度はアフガニスタン国内の帰還難民の子どもたちへと支援の重点を移していく。

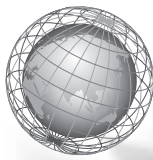
ネジャットセンターも、難民の状況を追いながら、小規模なコミュニティベースのカウンセリング事業を継続する予定であり、将来的にはカブールでの帰還難民への支援を考慮している。



コミュニティ文庫の子どもたち



学校建設の様子



ミャンマー(ビルマ)難民

Myanmar(Burma)Refugees

概要

2003年にカレン民族同盟(KNU)とミャンマー軍事政権の両者の間で和平交渉に向けた初の話し合いが開始されたが、その後の話し合いは進展せず、今なお民主化への道が閉ざされている状況である。また2004年10月にキンニュン首相が辞任。同首相は穏健派で少数民族やアウンサン・スーチー氏に対しても柔軟な対応を取ってきたので、民主化への道が遠ざかっていったと言える。

2004年度は事務所の運営・管理、図書館事業の運営について現地スタッフの役割りを高めていった。図書館スタッフにとっては、日本人の図書館専門家が帰国した最初の年にあたったが、第1フェーズでの研修を活かし、トレーナーとしての意識が高まり、技術指導の質的向上が図られた。

2005年度は引き続き、事務所また事業の運営・管理について現地スタッフ

の能力をより一層高めていき、同時に図書館の質、コミュニティーセンターとしての役割りをより強化していく。

図書館事業(※表3参照)

2004年度はタムビン難民キャンプ(タイ南西部ラチャブリ県スワンブン郡)で図書館活動を開始。同難民キャンプは7ヶ所目のキャンプ地となるが、新キャンプ地としてはこれが最終地になる。5月にはキャンプ図書館2館が開館した。また2002年9月に大洪水が発生したメコンカ難民キャンプが安全面の配慮からメラウ難民キャンプへ移転統合され、それに伴い、図書館3館も移転を余儀なくされた。これらの移転作業は、2003年11月から開始され、2004年5月に建設が終了、無事に開館した。また

ウンピラム難民キャンプにはすでに3館の図書館があったが、地理的状況から通うことが難しい場所に1館増築し、5月に開館した。

＜図書について＞

児童書については2004年度は新たに20タイトルの絵本を翻訳し、貼り付けて11月に配布した。また大人向けの本については主にビルマ語を中心に月に40～50冊を配布。2005年度は児童書については新たに20タイトルの絵本を選書し配布する予定である。出版については、カレン民話を中心に、折り紙マニュアル、ゲームマニュアル、カレン文化集、そしてSVA絵本コンクールで入賞したタイトルについて行う予定である。

表3：2004年までに建設した図書館数

	メーホンソン県		ターク県			カンチャナブリ県	ラチャブリ県
難民キャンプ名	メラウ	メラマルアン	ヌポ	ウンピラム	メラ	バンドンヤン	バンタムビン
図書館数	3	4	2	4	5	1	2
							合計21館



メラウキャンプ



メラウキャンプ図書館

＜図書館員、

＜SVA図書館スタッフへの研修＞

日本人の図書館専門家が帰国後、図書館スタッフ・チームは試行錯誤を重ねながら新たな教材作り等に取り組み、各図書館の図書館員に指導していった。また各図書館から図書館員を集めて、合同ワークショップをメーソットにて開催。国境情勢、またタイ政府の方針から2004年度は7カ所のうち4カ所の難民キャンプ（12館24名）のみからの参加となった。「絵本の質について」「手袋人形の製作」など、これまでタイ事務所や図書専門家から学んだ内容を図書館スタッフが講師となり指導を行った。また、図書館スタッフがラオス事務所を訪問して図書館事業の視察・研修を行った。2005年度は日本人専門家による短期研修、他の海外事務所での研修を検討していきたい。

＜伝統文化・高齢者活動＞

2005年度から図書館にて伝統文化・高齢者活動を実施するための準備を行なう。2004年11月には各図書館にて高齢者参加メンバー（各図書館20名ずつ）と会議を持ち、どのような活動に参加したいかなど話し合った。また伝統文化活動においてはカレンの伝統舞踊や伝統楽器の指導を子ども向けに行う計画であり、指導者や使用する伝統楽器の選考などを図書館委員会を中心として進めている。

＜タイ・カレン小学校での

移動図書館活動＞

ミャンマー難民キャンプにて支援活動を行っているNGOsはその周辺のカレン系タイ村にでも支援を行なっている。これは経済的に貧しいこの地域で、難民キャンプでの支援活動がタイの住民に不満や刺激を与えないようにとのタイ政府からの要請でもある。第1フェーズでの3年間は絵本の供与、小学校教員研修そして人形劇公演をタイ事務

所と共に不定期で行ってきたが、第2フェーズ開始の2004年度からは定期的な支援活動として、移動図書館活動を実施した。初年度ということもあり、メーソット事務所に最も近いターソンヤン郡のみにて実施。10カ所の小学校を対象に図書箱を巡回させていった。2005年度は5カ所の郡にて同活動を開始する。

＜ミャンマー難民に絵本を贈る運動＞

冬物衣類を送る運動終了後、2004年度に開始。絵本10タイトルを選び、ビルマ語、カレン語に翻訳した訳文シールを作成。日本の11団体に絵本への貼りつけ作業を実施していただき、合計1,500冊の絵本を現地に届けていただいた。モニタリングツアーは2005年2月に実施。

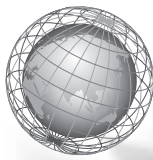
2005年度も絵本への訳文の貼りつけ作業を実施の予定。



タムヒンキャンプ図書館



図書館員の研修



緊急救援 Emergency Relief

2004年度は、前年度末に発生したイラン南東部地震の救援活動に始まり、7月以降は国内で立て続けに起きた風水害、地震災害に対して取り組むこととなった。また、奇しくも2003年のイラン南東部地震と同日に発生したスマトラ島沖津波災害にあたっても、タイ、インド、インドネシア、スリランカでの支援活動を開始した。

イラン南東部地震救援事業

2003年12月26日に発生したイラン南東部地震の緊急救援活動を実施。被災した子どもたちへの支援を中心に、1月～9月末までの間、日用生活品の配布、孤児院の修復、幼稚園教員研修、教材配布、仮設幼稚園舎の提供、幼稚園児の遠足などを行なった。

新潟・福井豪雨水害救援事業

7月、8月に発生した新潟及び福井県内の豪雨水害にあたり、現地へ職員を派遣。永平寺の雲水によるボランティア活動を現地の災害ボランティアセン

ターにつないだ他、震災がつなぐ全国ネットワーク、東京災害ボランティアネットワーク、三条市ボランティアセンターに対して活動資金面での協力なども行なった。

台風23号・豊岡水害救援事業

10月20日に発生した兵庫県豊岡市内の台風23号水害にあたり、緊急救援室長を現地に派遣。豊岡市社会福祉協議会を母体とした豊岡水害ボランティアセンターの設立に関係者とともに行ない、その後運営面での支援も継続して行なった。同時に、兵庫県第二宗務所青年会及び全国曹洞宗青年会とも連携を図り、被災者救援に対応した。

新潟中越地震救援事業

10月23日の新潟中越地震発生を受け、救援活動を開始。第一期支援として約2週間の間、関係団体とともに炊き出し活動を行った。11月11日からは、被災のひどかった町の一つ、川口町を中心に第二期支援活動をスタートさせ、

行政や社会福祉協議会とも協働しながらボランティアセンターの運営支援を実施した。2005年度も、救援・復旧から復興を見据えて衣替えした「川口町復興ボランティアセンター」へのサポートを継続し、仮設住宅の訪問、除雪活動、ひとり暮らしや高齢者世帯の方々のためのふれあい活動、中高受験生のための学習支援などを支援する。

スマトラ島沖津波災害救援事業

2004年12月26日に発生したスマトラ島地震による津波被害区域において救援活動を開始。在外事務所のあるタイでは、被災直後から日本人職員、タイ人職員が南部被災地で常駐体勢を敷きながら人道支援物資の配布を行ない、復旧期に入ってから子どもの心のケアのための図書館活動や住民組織に対するサポートを実施している。インドのタミルナド州においては現地NGO・ASAG、インドネシアのアチェ州においては現地NGO・PPSW、スリランカについては「れんげ国際ボランティア会」等を通しての支援活動を実施中である。



学用品を受け取るイラン・バムの子どもたち



台風23号水害で被災した家屋



新潟中越地震・東小千谷中学校での炊き出し

子ども防災教育活動

全国曹洞宗青年会、東京災害ボランティアネットワークと連携し、9月11日に、子ども防災教育「子ども防災寺子屋」を埼玉県狭山市慈眼寺にて実施。地域に住む小学生とその保護者、消防団員や自治会役員など約50名が参加し、震災の現実を紹介したビデオ上映、防災まちあるき&マップづくりを行なった。また地区消防署の協力を得て消火器や煙ハウス、負傷者搬送などの訓練も実施した。今後は、年3回程度を目処に地域レベルでの活動として、関係各団体と連携しながら実施していく。

大規模地震を想定した行動指針の策定

東京事務所を含む首都圏が大規模被災した場合に備え、救援活動を実施することを想定した事務局職員の行動指針を策定した。2005年度は、東海地震を想定した救援活動の実施案の整備を進めていく。

阪神淡路大震災10周年事業

阪神淡路大震災から10年を迎える2005年1月17日を前に、SVAがこれまで深く関わってきた次の3つの事業について支援を行なった。

1. タイムカプセルの掘り起こしとメッセージの返却

SVAが当時拠点としていた神戸市兵庫区八王寺の敷地内から震災後埋藏したタイムカプセルの掘り起こしを行ない、その中に封印していた被災者やボランティアたちが記した「10年後の自分へ」というメッセージを本人の手元へ返却した。またその記録を映したビデオ、「神戸・手紙・未来」の制作も行なった。

2. 識字教室「ひまわり教室」事務所移転支援

震災後、地元の人々とともに立ち上げ、活動が引き継がれてきた成人識字教室「ひまわり会」が、10年を機にこれまでのプレハブ事務所から移転し、新たに再スタートしていくこととなったため、

初動資金の支援を行なうこととした。

3. 御蔵地区復興誌出版支援

長田区御蔵地区のまちづくり支援を担う「まち・コミュニケーション」事務局が、10年を期に人々の喜びや苦悩を綴ったまちの復興誌をまとめることとなったため、SVAとして出版費用の一部を助成した。

三宅島支援事業

4年半にわたり島外避難を余儀なくされてきた三宅島島民が、2005年2月に境に本格帰島を開始する。SVAも三宅島災害・東京ボランティア支援センターの加盟団体の一員として、帰島時・帰島直後の島民の方々の生活再建支援活動に協力していく。第一期支援となる2～7月は、会員・関係者、関係大学に呼びかけて、三宅島現地でのボランティアを募集して派遣する活動を実施する。



スマトラ沖津波 タイの被災地に設置した給水タンク



三宅島・島民と帰島支援ボランティア
(写真提供:三宅島災害・東京ボランティア支援センター)



防災寺子屋



国内活動

会員、支援者との連携

会員募集キャンペーンを2004年6、7月に実施（期間入会数86名）、2004年12月末現在で会員数は2,309名（2004年度目標2,400名）となった。また、昨年度に引き続き「地域活動者の集い」を福岡で実施した。地域活動団体による取り組みとして「ミャンマー難民に絵本を贈る運動」をミャンマー難民への衣類支援者に提案、実施され、1,500冊が現地に届けられた（「絵本を届ける運動」とは別枠）。この活動は2005年度も実施する。

2005年度は会員数2,500名を目標とし、地域活動者の集いを東北地方で開催する。また地域活動団体を対象に長期ボランティア海外派遣事業を実施する。



『国際ボランティアの寺』

「アジア子ども文化祭」

これまでタイとラオスで実施されてきたが、2004年10月には東京で、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、インドネシア、日本（千葉）の子どもたちによる「アジア子ども文化祭」が日本テレビ放送網文化事業団との共催により実施され、国際交流キャンプ、公演、中学校訪問などが成功裏に行なわれた。

「チャイルド・ブック・サポーター」

新しく、より多くの人々にSVAの図書館事業を理解・支援していただくために、「新募金タスク」会議を2004年度に立ち上げた。この会議の成果として、2005年度から図書館事業を推進する新しいキャンペーン「チャイルド・ブック・サポーター」制度を開始する。

クラフト・エイド及びリサイクル・ブック・エイド

2004年度は、年度方針としての在庫縮小や人気商品の長期未入荷等が影響し、売上減を招いた。新商品としては、ラオス織の製品をラオス事務所経由で入手、

販売することができた。

2005年度は新たなクラフト製品の開発、記念品販売の拡充やクラフト以外の製品の販売にも力を注ぎ、またそれらをカタログ紙面に反映させていく。また2004年度に引き続き「e-モールド食器」の販売、(株)パワーのグループ会社による環境系の炭製品の販売も実施する。長期的に、販売事業をSVA活動全体の中でどう位置付けるのかの議論を深めていく。

絵本コンクール

2004年度、第1回「絵本コンクール」を実施。国内から148点、国外から120点の応募があり、「王さま王さま王さまのお城」が大賞に選ばれた。2005年度には第2回を実施、また2004年度入選作品の出版を実施。

絵本を届ける運動

2004年度、ラオス、カンボジアに届けた絵本は14,559冊、前年比約2,000冊の大幅増となった。運動参加者の増大と共に、ベルマーク教育助成財団の支援継続や絵本海外輸送への船会社から



アジア子ども文化祭



2005クラフトカタログ

の支援をえられた。しかし、このような活動の好調な伸びに比例し、年々増えてゆく作業量をどうこなしていくかが最大の課題である。

2005年度に届ける絵本の目標冊数は、12,000冊。現地事務所との緊密な連携を図りながら、60タイトルの見直し、作業効率のアップ、業務の合理化等を進めていく。

広報活動

2004年度は新版「SVAパンフ」が完成し、例年の倍のペースで各所に配布中(6か月で5万部配布)。また印刷物としては、通常の発行物に加えて、「国際ボランティアの寺」を対象とした『国際ボランティアの寺』の創刊、「イラン南東部地震」、「スマトラ沖地震」救援の広報、報告書を作成した。

メールニュース(企業・団体67社、メディア41社)の月次配信、緊急救援ニュースリリースの随時発行を軌道にのせた。

2005年度は、印刷物、ホームページ、インターネットを通じてのより一層の充実した広報に努める。また、広報用の事業写真をカメラマンに依頼すると

ともに、広報担当職員の現場研修、技能研修に努める。

海外事業支援

2004年度は、すべての指定寄付事業について「提案書」を作成し、支援者への提案で活用した。海外事務所の能力強化を進める人材育成計画案(2004～2006年度)を全海外事務所が作成した。海外事務所での研修生(インターンから名称変更)受入を実施。桜美林大学等から春季6名、夏季7名、計13名が参加した。受入に伴う事務所の負担を軽減するために受入時期を統一するなどシステムを改善した。ミャンマー(ビルマ)の教育状況をヤンゴン市内を中心に調査したが、政変もあり、民主化が進展しない状況となったため、プロジェクト形成調査は延期した(政治状況が好転すれば、2005年度に形成調査を実施)。

2005年度は、教育協力事業の改善(人材育成、事業運営、事業評価への支援)、研修交流事業の推進(各種交流事業、海外研修プログラムの継続)に努める。

ネットワーク事業・政策提言

各種ネットワークに参加(27ページ参照)。特に、「教育協力NGOネットワーク」(JNNE)事務局を務め、外務省委託研修事業、文部科学省・国立教育政策研究所の委託調査、教育協力政策についての提言活動を行った。事務所訪問学習プログラムでは7校が東京事務所を訪れた。

2005年度は、引き続きJNNE事務局を務める。また、「すべての子どもに教育を」キャンペーンの展開、総合学習に対応した教材の開発を行なう。

愛・地球博「地球市民村」への参加

2004年度に、地球市民村に参加することを決定、準備に入った。2005年7月1日から7月31日までの期間、SVAは地球市民村に「アジアおはなしの家」パビリオンを設置。ミャンマー難民キャンプの「竹の図書館」を作り、カンボジア、ミャンマー難民キャンプ、アフガニスタンの現地スタッフが来日し読み聞かせ等を実施する。



「絵本を届ける運動」に参加した高校生



2004年絵本コンクール大賞作品



2005年3月26日通常総会



会計報告

■2004年度 収支計算書 及び 2005年度 収支予算書

(2002年度の会計期間は、2002年4月から12月までの9ヶ月になっています。)

(1) 収入の部

(単位:万円)

区 分	2002	2003	2004				2005			
	決算 (9ヶ月)	決算	予算 A	決算 B	04予算比較		予算 C	04決算比較		構成比 %
					差異 B-A	予算比 B/A		増減 C-B	増減比 C/B	
会 費	2,240	2,915	3,000	3,073	73	102	3,100	27	103	4.9
年末年始募金	3,494	3,000	4,000	2,353	▲ 1,647	59	3,800	1,447	95	6.1
国際ボランティアの寺募金	708	1,102	1,100	1,167	67	106	1,300	133	118	2.1
花まつり募金	861	1,119	1,200	547	▲ 653	46	1,000	453	83	1.6
曹洞宗関係(宗務庁・大本山・梅花大会等)	1,280	1,139	1,350	1,048	▲ 302	78	1,150	102	85	1.8
その他の募金(現地募金含む)	779	1,316	1,890	2,128	238	113	3,235	1,107	171	5.2
アジア子ども募金	7,122	7,676	9,540	7,243	▲ 2,297	76	10,485	3,242	110	16.7
タイ事業指定募金	2,095	3,621	2,579	3,771	1,192	146	2,359	▲ 1,412	91	3.8
カンボジア事業指定募金	8,012	6,299	6,814	6,319	▲ 495	93	7,726	1,407	113	12.3
ラオス事業指定募金	3,248	2,465	4,821	2,680	▲ 2,141	56	5,970	3,290	124	9.5
ミャンマー難民支援事業指定募金	209	81	180	377	197	209	855	478	475	1.4
アフガニスタン事業指定募金(02:緊急救援含む)	3,259	4,394	4,191	1,801	▲ 2,390	43	3,144	1,343	75	5.0
国・地域指定募金	16,823	16,860	18,585	14,948	▲ 3,637	80	20,054	5,106	108	32.0
絵本を届ける運動	1,436	2,139	1,827	2,615	788	143	2,305	▲ 310	126	3.7
絵本コンクール			1,400	270	▲ 1,130	19	500	230	36	0.8
リサイクルブックエイド	149	177	100	147	47	147	200	53	200	0.3
ミャンマー難民に衣類を贈る運動	1,035	987	0	15	15	0	0	▲ 15	0	0.0
その他指定募金	2,620	3,303	3,327	3,047	▲ 280	92	3,005	▲ 42	90	4.8
一般事業募金 小計	26,565	27,839	31,452	25,238	▲ 6,214	80	33,544	8,306	107	53.5
緊急救援募金	8	2	3,289	13,634	10,345	415	5,000	▲ 8,634	152	8.0
緊急救援基金(基金等預り金)取崩	4,054	718	0	2,420	2,420	0	0	▲ 2,420	0	0.0
緊急救援募金 小計	4,062	720	3,289	16,054	12,765	488	5,000	▲ 11,054	152	8.0
①会費・募金・民間助成金 計	32,867	31,474	37,741	44,365	6,624	118	41,644	▲ 2,721	110	66.4
クラフトエイド	4,797	4,934	4,800	3,646	▲ 1,154	76	3,900	254	81	6.2
視察研修交流受入	260	178	517	702	185	136	646	▲ 56	125	1.0
預金利子	21	8	38	7	▲ 31	18	14	7	37	0.0
その他収入	897	2,088	1,076	1,396	320	130	1,546	150	144	2.5
②公益事業関連収入等 計	5,975	7,208	6,431	5,751	▲ 680	89	6,106	355	95	9.7
外務省NGO支援無償	0	0	4,250	873	▲ 3,377	21	6,660	5,787	157	10.6
外務省NGO事業補助金	3,406	3,443	0	0	0	0	0	0	0	0.0
外務省草の根無償資金協力	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
外務省委託業務契約他	773	506	600	569	▲ 31	95	600	31	100	1.0
日本国外務省関係 小計	4,179	3,949	4,850	1,442	▲ 3,408	30	7,260	5,818	150	11.6
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	1,452	2,509	3,603	2,127	▲ 1,476	59	2,808	681	78	4.5
その他国際機関・外国政府	492	200	125	0	▲ 125	0	60	60	48	0.1
国際機関・外国政府 小計	1,944	2,709	3,728	2,127	▲ 1,601	57	2,868	741	77	4.6
国際協力機構(JICA)	1,169	1,141	2,500	1,049	▲ 1,451	42	4,262	3,213	170	6.8
日本郵政公社 国際ボランティア貯金	1,024	0	250	0	▲ 250	0	0	0	0	0.0
その他の公的機関(自治体含む)	0	171	0	0	0	0	560	560	0	0.9
その他公的資金 小計	2,193	1,312	2,750	1,049	▲ 1,701	38	4,822	3,773	175	7.7
③公的資金 計	8,316	7,970	11,328	4,618	▲ 6,710	41	14,950	10,332	132	23.8
(1) 収 入 合 計 (①+②+③)	47,158	46,652	55,500	54,734	▲ 766	99	62,700	7,966	113	100.0

(注) 当報告書に記載した計算書類は、SVAの責任において作成し、監事による監査を受けた後に、総会において承認を受けたものです。
ここに掲載しきれなかった計算資料については、ご連絡いただければお送りいたします。
なお、公益法人会計の基準に準拠した計算書類は、新日本監査法人による外部監査を受けております。

(2) 支出の部

(単位:万円)

区 分	2002	2003	2004				2005			
	決算	決算	予算	決算	04予算比較		予算	04決算比較		構成比
					差異	予算比		増減	増減比	
	(9ヶ月)		A	B	B-A	B/A	C	C-B	C/B	%
タイ事業費	2,374	3,443	2,880	2,585	▲ 295	90	2,880	295	100	4.6
カンボジア事業費	9,285	8,398	8,128	7,356	▲ 772	91	10,314	2,958	127	16.4
ラオス事業費	3,281	4,450	6,128	4,288	▲ 1,840	70	9,219	4,931	150	14.7
ミャンマー(ビルマ) 難民支援事業費	2,203	2,755	3,484	2,706	▲ 778	78	3,364	658	97	5.4
アフガニスタン事業費	926	2,534	4,885	3,209	▲ 1,676	66	5,327	2,118	109	8.5
為替差損益調整	667	0	0	415	415	0	0	▲ 415	0	0.0
一般海外事業費	18,736	21,580	25,505	20,559	▲ 4,946	81	31,104	10,545	122	49.6
地震・水害・噴火等被災者支援費	1,433	301	2,450	8,473	6,023	346	3,860	▲ 4,613	158	6.2
緊急救援基金(基金等預り金)へ繰入	4,769	0	0	3,456	3,456	0	0	▲ 3,456	0	0.0
緊急救援事業費 計	6,202	301	2,450	11,929	9,479	487	3,860	▲ 8,069	158	6.2
①海外事業費(派遣者人件費除く) 計	24,938	21,881	27,955	32,488	4,533	116	34,964	2,476	125	55.8
地球市民活動(開発教育事業)直接費	1,069	1,899	2,635	2,043	▲ 592	78	3,769	1,726	143	6.0
絵本を届ける運動直接費	753	1,078	1,029	1,438	409	140	1,394	▲ 44	135	2.2
絵本コンクール直接費			800	161	▲ 639	20	250	89	31	0.4
クラフトエイド事業費	1,980	2,195	2,264	1,732	▲ 532	77	2,080	348	92	3.3
広報活動費	415	688	634	699	65	110	747	48	118	1.2
事業直接費 計	4,217	5,860	7,362	6,073	▲ 1,289	82	8,240	2,167	112	13.1
施設費(家賃、機器リース料、光熱費他)	831	1,213	1,149	1,225	76	107	1,119	▲ 106	97	1.8
業務委託費等(給与計算、外部監査費他)	547	540	629	399	▲ 230	63	585	186	93	0.9
諸経費(旅費、消耗品費、通信費他)	1,438	1,900	1,673	1,768	95	106	1,468	▲ 300	88	2.3
事業間接費 計	2,816	3,653	3,451	3,392	▲ 59	98	3,172	▲ 220	92	5.1
②国内事業費(人件費除く) 計	7,033	9,513	10,813	9,465	▲ 1,348	88	11,412	1,947	106	18.2
給与手当・諸手当	10,044	14,265	13,523	13,606	83	101	13,479	▲ 127	100	21.5
法定福利費(健康保険、厚生年金他)	1,273	1,675	1,648	1,658	10	101	1,649	▲ 9	100	2.6
その他(傷害保険、退職共済、通勤費他)	745	1,650	1,261	1,420	159	113	1,196	▲ 224	95	1.9
③人件費(派遣者人件費含む) 計	12,062	17,590	16,432	16,684	252	102	16,324	▲ 360	99	26.0
(2) 支 出 合 計 (①+②+③)	44,033	48,984	55,200	58,637	3,437	106	62,700	4,063	114	100.0

当期収支差額 (1)-(2)	3,125	▲ 2,332	300	▲ 3,903	▲ 4,203	▲ 1,301	0	3,903	0	
公益法人会計移行に伴う修正	▲ 150	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期収支差額 (再計)	2,975	▲ 2,332	300	▲ 3,903	▲ 4,203	▲ 1,301	0	3,903	0	
(3) 前期繰越金	4,227	7,202	4,870	4,870	0	100	967	▲ 3,903	20	
次期繰越額 (再計)+(3)	7,202	4,870	5,170	967	▲ 4,203	19	967	0	19	

為替レート (単位:円)	(2002)	(03実績)	(04予算)	(04実績)	(05予算)					
タイ・ミャンマー難民事業 (1円=77.50)	2.8950	2.7988	3.0000	2.6922	▲ 1.308	90	3.000	0.308	100	
カンボジア・ラオス・アフガニスタン (1US\$=100円)	123.87	117.09	122.00	108.47	▲ 31.530	89	120.00	11.530	98	

■前期比較 貸借対照表 <2004年12月31日現在>

(1) 資産の部

(単位:万円)

借方	前年度末 (03/12末)	当年度末 (04/12末)	比較増減
現金預金	21,437	2,800	▲ 18,637
売掛金	175	87	▲ 88
未収金	4,988	2,907	▲ 2,081
前払金	534	552	18
貯蔵品(手工芸品)	1,427	1,713	286
その他	163	181	18
流動資産計	28,724	8,240	▲ 20,484
基本金預金	5,000	5,000	0
基本準備金預金	11,113	11,113	0
基金等預金他	1,070	16,832	15,762
固定資産計	17,183	32,945	15,762
合計	45,907	41,185	▲ 4,722

期末為替レート(単位:円)

タイ(1バツ当り)	2.7035	2.6438	▲ 0.0597
その他の国(1USドル当り)	107.11	102.71	▲ 4.40

(2) 負債の部・正味財産の部

(単位:万円)

貸方	前年度末 (03/12末)	当年度末 (04/12末)	比較増減
未払金	3,550	1,343	▲ 2,207
前受金	4,397	4,222	▲ 175
預り金	1,453	1,660	207
基金等預り金	14,409	0	▲ 14,409
未払税金等	45	48	3
流動負債計	23,854	7,273	▲ 16,581
負債の部	23,854	7,273	▲ 16,581
基本金	5,000	5,000	0
基本準備金	11,113	11,113	0
基金等預金他	1,070	16,832	15,762
前期繰越収支差額	7,202	4,870	▲ 2,332
当期収支差額	▲ 2,332	▲ 3,903	▲ 1,571
繰越正味財産(次期繰越)	4,870	967	▲ 3,903
正味財産の部	22,053	33,912	11,859
合計	45,907	41,185	▲ 4,722

■収支分析 <2002年度-2005年度> ※2002年度会計期間は2002年4月~12月の9カ月

(1) 収入の内訳

(単位:万円)

	02決算	03決算	04決算	05予算	構成
1.会費・一般事業募金	28,805	30,754	28,309	36,644	58%
2.緊急救援募金	4,062	720	13,634	5,000	8%
3.公益事業関連収入等	5,975	7,208	5,752	6,106	10%
4.公的資金	8,316	7,970	4,618	14,950	24%
合計	47,158	46,652	52,313	62,700	100%

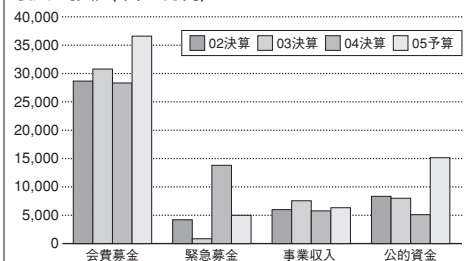
(2) 支出の内訳

(単位:万円)

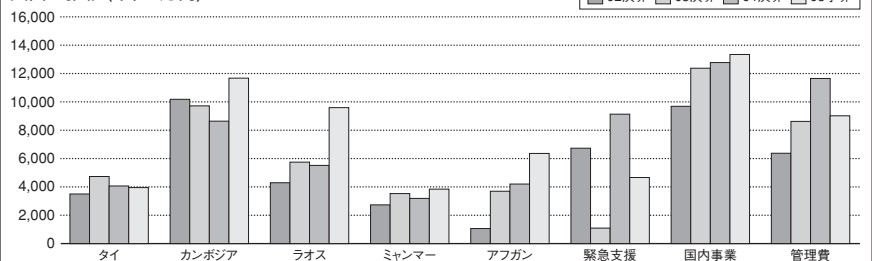
	02決算	03決算	04決算	05予算	構成
1.タイ事業費(注1)	3,374	4,553	3,962	3,891	6%
2.カンボジア事業費	10,241	9,637	8,587	11,654	19%
3.ラオス事業費	4,236	5,706	5,468	10,210	16%
4.ミャンマー(ビルマ)事業費	2,650	3,411	3,101	3,783	6%
5.アフガニスタン事業費	926	3,681	4,091	6,265	10%
6.緊急救援事業費	6,678	994	9,132	4,567	7%
7.国内事業費	9,661	12,409	12,701	13,304	21%
8.管理費(注2)	6,267	8,593	11,595	9,026	14%
合計	44,033	48,984	58,637	62,700	100%

(注1) タイ事業費には、現地法人シーカーアジア財団の現地収入を控除した差引支援額のみ計上
(注2) 事業に係る人件費は各事業費に振替

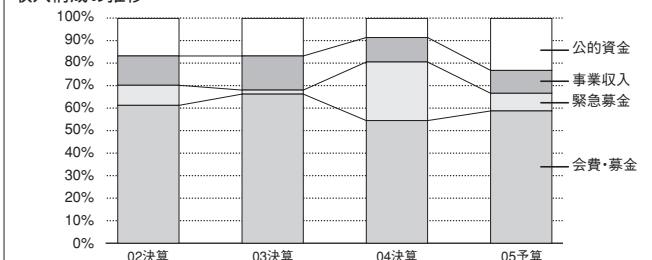
収入の推移(単位:万円)



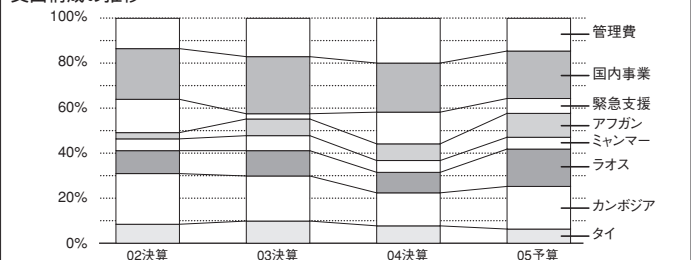
支出の推移(単位:万円)

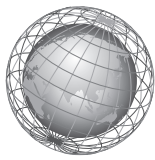


収入構成の推移



支出構成の推移





資料編

組織一覽

■ 会員 (2004年12月31日現在、()は2003年度)

会員合計数=2,309名 (2,228名)

社員会員=366名 (362名)

個人社員会員=299名 (297名)

団体社員会員= 61名 (62名)

学生社員会員= 6名 (3名)

非社員会員=1,943名 (1,866名)

個人普通正会員=1,630名 (1,554名)

団体普通正会員= 198名 (204名)

学生普通正会員= 80名 (78名)

個人維持会員= 20名 (17名)

団体維持会員= 14名 (13名)

名誉会員= 1名

■ 役員 (2005年4月1日現在)

理事(会長) **松永然道** (曹洞宗大本山永平寺副監院兼国際部長、静岡県・宗徳院住職)
理事(副会長) **足立房夫** (社団法人東京都障害者スポーツ協会副会長)
理事(副会長) **我妻耕道** (宮城県・江蔵寺住職)
理事(専務理事) **秦 辰也** (シーカー・アジア財団理事)
理事(常務理事) **三部義道** (山形県・宿用院住職)
理事(常務理事) **若林恭英** (長野県・安楽寺住職)
理事(常務理事) **神津佳予子** (有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長)
理事 **赤石和則** (拓殖大学国際開発学部教授)
理事 **上原泰男** (日本労働組合総連合会東京連合会副事務局長)
理事 **小野田全宏** (特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会常務理事)
理事 **倉科利行** (長野県・全久院住職)

理事 **繁岡哲哉** (曹洞宗栃木県国際ボランティア会事務局長)
理事 **茅野俊幸** (SVA事務局長)
理事 **萩野頼子** (埼玉県・能仁寺寺族)
理事 **篠本宏昌** (東京都・泰宗寺住職)
理事 **早坂文明** (宮城県・徳本寺住職)
理事 **松尾純代** (大阪マイペンライ運営委員)
理事 **八木澤克昌** (SVAタイ事務所長兼ラオス事務所長)
理事 **渡津法晃** (愛知県・龍洞院住職)
監事 **大野恭史** (学校法人真福学園理事長)
監事 **白石 孝** (自治労荒川区職労書記長)

■ 代議員 (2005年4月1日現在)

荻野徹殿 (北海道)	鳥谷部俊悦 (青森県)	谷本俊昭 (岩手県)	赤塚俊治 (宮城県)	伊串泰純 (宮城県)	岡崎正利 (宮城県)
金平祖隆 (福島県)	西川一英 (福島県)	黒田光泰 (栃木県)	矢野正広 (栃木県)	上原康史 (群馬県)	青木利元 (埼玉県)
根岸セツ子 (埼玉県)	鎌田恭子 (茨城県)	田中治彦 (茨城県)	木村 憲 (千葉県)	木村誠治 (千葉県)	芦川正夫 (東京都)
後藤文雄 (東京都)	坂本観晃 (東京都)	野村修一 (東京都)	町田宗鳳 (東京都)	安井清子 (東京都)	渡辺恵司 (東京都)
渡辺やす子 (東京都)	佐藤凉子 (神奈川県)	丸山素香 (長野県)	高橋敬雄 (新潟県)	渡邊真人 (新潟県)	野村耕健 (静岡県)
笹岡賢司 (静岡県)	高田憲道 (愛知県)	片野晴友 (三重県)	前川 実 (大阪府)	富田基房 (大阪府)	SVA京都寺院の会 (京都府)
田中保三 (兵庫県)	林 道子 (兵庫県)	村井雅清 (兵庫県)	浅井真澄 (奈良県)	小豆澤道雄 (島根県)	西村信恵 (広島県)
末益俊二 (山口県)	井上幸一 (愛媛県)	亀崎弘記 (福岡県)	里見照子 (福岡県)	荒木正昭 (熊本県)	

■ 顧問 (2005年4月1日現在)

藤本幸邦 (長野県・円福寺東堂、円福友の会会長、SVA名誉会員)
川原英照 (熊本県・蓮華院誕生寺貫主、特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会会長)
松野宗純 (福井県・地藏院住職、PHP友の会会長)
荒巻 裕 (近畿大学文芸学部教授)
阿部豊淳 (宮城県・光寿院住職)

■ SVA 国際ボランティア親善大使 (2005年4月1日現在)

佐々木主浩 (横浜ベイスターズ)

■ 事務局職員 (180名、うち日本人49人) (2005年4月1日現在)

<専務理事> **秦 辰也**
<事務局長> **茅野俊幸**
<事務局次長> **三宅隆史** (休職)

●東京事務所 (35名)
[海外事業・企画調査課]
課長・アフガニスタン担当
兼ミャンマー難民事業担当: **市川 斉**
課長補佐・ラオス担当: **小野豪大**
タイ担当: **佐久間美穂**
カンボジア担当: **白鳥孝太**
長谷部貴俊 (5月末迄)
企画調査担当: **伊藤解子**
[緊急救援室]
室長: **関 尚士**
鈴木晶子

[国内事業課]
課長: **仲野万里子**
クラフト・エイド兼
リサイクルブック・エイド担当: **川崎典子**
クラフト・エイド担当: **鈴木淳子**
絵本を届ける運動担当: **佐藤麻弥**
絵本を届ける運動担当: **若山 聡**
服部貴子 (産休)

[広報課]
課 長: **高橋久夫**
村田 泉
清野陽子
宗教担当: **大菅俊幸**
チャイルド・ブック・
サポーター担当: **横山葉子**

[経理・総務課]
課 長: **磯部正広**
経理担当: **黒澤真理子**
経理・総務担当: **澤田隆史**
総務担当: **河口尚子**
会員担当: **藤川和美**
8名

[パート職員]

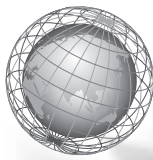
●タイ事務所 (34名)
所 長: **八木澤克昌** (兼務)
国際部: **江幡むつみ**
国際部: **小林寛明**
国際部: **田村奈津子**
国際部: **岩船雅美** (休職)
(現地職員29名)

●ミャンマー難民事業事務所(タイ) (22名)
所長: **中原亜紀**
(現地職員21名)

●カンボジア事務所 (39名)
所長: **内藤広亮**
図書館事業担当: **鎌倉幸子**
学校建設事業担当: **小味かおる**
事業アドバイザー: **手束耕治**
(現地職員35名)

●ラオス事務所 (21名)
所長: **八木澤克昌** (兼務)
副所長: **川村 仁**
国際・研修部プロジェクトリーダー: **米岡雅子**
(現地職員18名)

●アフガニスタン事務所 (30名)
所長: **伊藤丈二**
山本英里
(現地職員28名)



支援団体

2004年度も多くの方々から、活動支援、緊急救援、クラフト購入などでご入金いただきました。さらに、匿名での寄付、物品の提供、各種催しへの参加、ボランティア活動など様々な形で多くの個人・団体のご支援・ご協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

2004年度（2004年1月1日～2004年12月31日）、団体で10万円以上の資金提供をいただいた方々のお名前を掲載させていただきます。（敬称略、県別、50音順）
（紙面が限られているので、「10万円以上の団体」とさせていただきます）

■ 主な支援団体一覧表 <2004年12月31日現在>

【北海道】 高龍寺、全龍寺、曹洞宗北海道第一宗務所、曹洞宗北海道第一宗務所婦人会、曹洞宗北海道第二宗務所、曹洞宗北海道第三宗務所、長福寺、法光寺、曹洞宗北海道管区婦人会研修会、満福寺

【青森県】 海安寺、玉泉寺、昭伝寺、常現寺、澄月寺、長流寺、浮木寺、報効寺、廣澤寺

【岩手県】 安養寺、岩手県曹洞宗青年会、祇陀寺、光西寺、高建寺、山田町国際交流協会、盛岡ベンチャークラブ、前沢町立前沢中学校、大東中学生有志一同、宝全寺

【宮城県】 サンタピアアップみやぎボランティア会、光寿院、高音寺、西園寺花園会、曹洞宗東北管区教化センター、大雄寺、徳泉寺、徳本寺、陽雲寺、輪王寺

【秋田県】 秋田県農業協同組合青年部協議会、曹洞宗秋田県宗務所、普門院、

【山形県】 慶松寺、実相寺、寿仙寺、宿院、清林寺、曹洞宗山形県第一宗務所、曹洞宗山形県第二宗務所、長泉寺、余目町国際交流協会、陽春院

【福島県】 SVA福島県協会、曹洞宗福島県宗務所、曹洞宗福島県青年会、長命寺

【茨城県】 茨城アジア教育基金を支える会、アジア友情の会、つくばクリエイティブ・リサイクル、茨城アジア教育基金を支える会内原グループ、天徳寺、竜泉院

【栃木県】 乾徳寺、桂林寺、光真寺、祥雲寺、西方寺、曹洞宗栃木県国際ボランティア会、長林寺、繁桂寺、明林寺

【群馬県】 かのんボランティア会、ボランティアこぶの会、ラオスの会、海源寺、天増寺、宝積寺、明言寺

【埼玉県】 豊鑑寺ボランティア基金、クメール語の絵本を贈る会、豊鑑寺、傑傳寺、上尾北ロータリークラブ、曹洞宗埼玉県第一宗務所、曹洞宗埼玉県第二宗務所、大圓寺、東栄寺、日本バプテスト連盟、日本赤十字社志木市地区、能仁寺、宝持寺、法城寺

【千葉県】 ダーナの会、ハンカチの木、(株)大地、(財)モラロジー研究所、慈恩院、新井寺、真光寺、曹洞宗千葉県宗務所、曹洞宗千葉県第五教区護持会、長寿院、天徳寺、東昌寺

【東京都】 (財)ベルマーク教育助成財団、(財)国際開発高等教育機構、(財)新日本宗教団体連合会、(財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会、WCRP日本委員会婦人部会、(財)全日本仏教会、(財)全日本仏教尼僧法団、(財)全日本仏教尼僧法団東京支部、(財)日本テレビ放送網文化事業団、(社)日本国際児童図書評議会、日本郵政公社労働組合、(特活)世田谷楽友協会、(特活)毎日新聞希望のネットワーク、NECソフト(株)、アーユス仏教国際協力ネットワーク、アジア婦人友好会、クラレ労働組合関東支部東京分会、解脱会、(株)博報堂、(株)OLC・ラヴィ・インテイク、(株)ハウス食品、(株)フルヤ、(株)マイテック、(株)電通 古本市の会、(株)日本航空、観照ボランティア会、観泉寺、駒沢大学教職員組合、功運寺、高

円寺、高乗寺、国際基督教大学、(財)国際開発救援財団、三井住友海上火災保険(株)スマイルハートクラブ、三井住友銀行ボランティア基金、慈眼寺、自治労東京都本部、(社)全日本仏教婦人連盟、住友生命保険相互会社、新日本宗教青年会連盟、深大寺、真如苑、青松寺、静勝寺、全昌院、全日本自治団体労働組合(自治労)中央本部、全龍寺、曹源寺、曹洞宗宗務所、曹洞宗東京都宗務所、曹洞宗婦人会、損保ジャパン ちきゅうくらぶ、泰宗寺、知行院、天寧寺、田園調布雙葉学園同窓会、東京一隅を照らす運動、東京お宝市場実行委員会事務局、東京プティストクラブ、東京海上日動あんしん生命保険(株)、東京災害ボランティアネットワーク、東京総和会、東京府中ロータリークラブ、東武トラベル(株)、道場寺、(特活)ジャパン・プラットフォーム、日産自動車(株)、日産産連リック事業部、日本基幹産業労働組合連合会、日本教職員組合国際部、日本労働組合総連合会、武蔵野学園小学校、福壽院、仏教NGOネットワーク、宝昌寺、法清寺、蓬生会、毎日新聞東京社会事業団、妙智會ありがとう基金、妙智會教団婦人部、森を再生させる会、(有)ぐらする一つ池袋店、立正佼成会、立川とラオスを絵本で結び、龍津寺、連合葛飾地区協議会、圓融寺

【神奈川県】 (特活)環境アリーナ研究機構、シャンティ湘南、ブックオフ物流(株)、横浜YMCA、(株)ちえのわハウス、貴雲寺、建長寺、自治労農ネット、湘南文化教室、神奈川県第一宗務所青年会ボランティア委員会、捜真女学校図書委員会、曹洞宗関東管区婦人会研修会、大本山總持寺三松会、長念寺、鶴見大学、鶴見大学短期大学部国文科、倫勝寺、總持寺白字会

【山梨県】 第29回関東東地区有道会山梨大会・懇親会

【長野県】 おんなじ空ネットワーク、セイコーエフソン労働組合、マイトリート、安楽寺、安楽寺婦人部 沙羅の会、安楽友の会、円福友の会、愚芳塾、自性院、瑞松寺、成就寺、正隣寺、全久院、曹洞宗長野県第一宗務所、曹洞宗長野県第二宗務所青年会、曹洞宗北信越管区教化センター、大輪寺、地藏庵、長久寺、長桂寺、東昌寺、桃源院、福泉寺、法泉寺、龍洞院、霊松寺、廣澤寺

【新潟県】 新潟県第三宗務所寺族会、正眼寺、曹洞宗新潟県第四宗務所、洞照寺

【富山県】 グレーバリー

【石川県】 光明寺

【福井県】 永賞寺、大本山永平寺、霊泉寺

【岐阜県】 ホエミ神邸、曹洞宗岐阜県宗務所、曹洞宗岐阜県青年会

【静岡県】 (有)ヴォイテック、せせらぎ、ヌン・サン浜松、プロジェクトY、遠州三十三観音霊場会事務局、郡定寺、源光院、国際ソロプチミスト浜松、宗徳院、静岡英和学院大学ボランティアセンター、静岡県第一曹洞宗青年会、静岡県東部SVA青年会、静岡第三同志会、曹洞宗静岡県第一宗務所婦人会、大昌寺、智満寺、天林寺、保寿寺、龍谷寺、真珠院

【愛知県】 SVA愛知、サオーレ、(有)オゾン、雲太寺、観音寺、慈光院、自治労名古屋市労働組合、曹洞宗愛知県第一宗務所、曹洞宗愛知県第二宗務所婦人会、長圓寺、徳念寺、満徳寺檀信徒、(有)コスミック・パース、龍洞院

【三重県】 光明寺子供会、三重県曹洞宗青年会

【滋賀県】 常栄寺、水口町社会福祉協議会、青龍寺、地福寺、天台宗一隅を照らす運動総本部、美輪湖の家瑞穂、仏立寺

【京都府】 SVA京都寺院の会、乾窓院、壬生寺、日本PHP友の会、

【大阪府】 (財)箕面市国際交流協会サワディー・プロジェクト、(株)グローアップ、弘隆寺、自治労大阪府本部、大阪マイペンライ、大阪市職員労働組合病院支部、大阪市職員労働組合民生局支部、大阪府立松原高等学校、東光院、部落解放同盟大阪府連合会

【兵庫県】 (社)神戸市私立保育園連盟、CODE海外災害援助市民センター、コレチオーネ・カズ、永泰寺兵庫県第一婦人会、向栄寺、真言律宗ボランティア会、全昌寺、曹洞宗近畿管区婦人会、曹洞宗婦人会ボランティア委員会、曹洞宗兵庫県第一宗務所、曹洞宗兵庫県第二宗務所、大本山中山寺、長楽寺、(特活)国際エンゼル協会、被災地NGO協働センター、姫路東ロータリークラブ

【奈良県】 秀慈気光研究会、曹洞宗奈良県宗務所、天照寺、東大寺、奈良大宮ロータリークラブ

【和歌山県】 徳明寺

【鳥取県】 瑞仙寺、曹洞宗鳥取県宗務所

【島根県】 いずも曹洞宗青年会事務局、のんのんさんの会、正福寺、石見曹洞宗青年会、曹洞宗島根県第一宗務所、曹洞宗島根県第二宗務所、洞光寺、葉師寺、

【岡山県】 観音寺、西来寺きやらの会

【広島県】 神応院、曹洞宗中国管区婦人会研修会、菩提樹の会、法龍寺

【山口県】 ギャラリー 三匹の猫、シャンティ山口、原江寺、光善寺、国際ソロプチミスト新南陽、祥雲寺、中国地蔵尊霊場山口分会、直指院、法明院、

【香川県】 (特活)セカンドハンド

【愛媛県】 香林寺

【福岡県】 松源寺、新九州電力労働組合福岡支部、新九州電力労働組合本部、浮羽中学校統合30周年実行委員会、福岡東部子ども劇場

【佐賀県】 自治労佐賀県本部、中山身語正宗

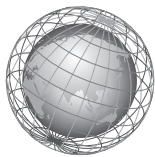
【長崎県】 宛陵寺、円福寺、曹洞宗長崎県第一宗務所、曹洞宗長崎県第一宗務所第六教区寺院一同、地藏寺、天祐寺

【熊本県】 れんげ国際ボランティア会

【大分県】 ライオンズクラブ国際協会337B地区、崇禅寺

【公的機関】

東京都
外務省
国際協力機構
国連難民高等弁務官事務所



資料編

ネットワーク一覧

■ 参加ネットワーク一覧 <2005年3月現在、【 】内はSVAの役職>

仏教NGOネットワーク(BNN)

【代表運営委員】

仏教系NGOや教団の海外協力部門等が相互に交流し、さらなる国際協力を推進することを目的に、2003年1月に発足。アユース、庭野平和財団などが参加。

教育協力NGOネットワーク(JNNE)

【運営委員、事務局】

全ての人々の学びの保障を目指して、教育協力に関わるNGO等により構成。情報交換、調査研究、能力強化、政策提言、啓発・広報活動などを実施。会員24団体。

東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)

【副代表】

大災害に対処するには、立場の異なる団体、人が普段から情報を交換し、互いに協力しあうことが重要であり、そのための「場」として誕生。

ジャパン・プラットフォーム(JPF)

【NGOユニット副代表】

NGO、経済界、政府が対等な関係の下、それぞれの特性・資源を生かし協力・連携し、難民発生時・自然災害時の緊急援助を効率的・迅速におこなうためのシステム。

震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)

【幹事】

全国各地の災害救援団体が連携して活動をおこなうためのネットワーク。災害救援やその後の被災地支援について、情報を発信する。

アジア太平洋成人教育協議会(ASPBAE)

【理事】

アジア太平洋地域の28か国、約400のNGOが参加する成人教育の地域組織。成人教育に関する研修、政策提言、情報交換を実施。事務局はインド。

(特活)メコン・ウォッチ 【理事】

メコン河流域の人々が開発の弊害を被ることなく、自然環境に根ざした生活の豊かさを享受できるように支援。調査研究、政策提言、情報発信を実施。

NGO・労働組合国際協働フォーラム

【企画委員】

NGOと労働組合間の相互理解と協働事業を促進し、国連ミレニアム開発目標(MDGs)に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与する。

(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

【正会員団体】

国際協力を行うNGOのネットワーク。NGO活動の推進、理解者や支援者の拡大、日本社会での社会基盤整備が目的。正会員67団体、協力会員80団体。

(特活)開発教育協会(DEAR) 【団体会員】

開発教育の推進が目的。教育関係者、NGO・NPO、青年海外協力隊OB・OG、国際機関、国際交流協会、自治体、研究者や学生などが参加。

カンボジア市民フォーラム 【会員】

カンボジアに関わるNGO、法律家、研究者などにより構成。「人権」「教育」「環境」「女性と子ども」などのグループの活動、現地NGOと協力しての提言活動を実施。

ビルマ市民フォーラム 【会員】

ビルマ(ミャンマー)の民主化を目指す日本の市民と在日ビルマ人の組織。

地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL) 【会員】

地雷廃絶を目指す市民の連合体。

UNHCR PARinAC Japan Forum

【会員】

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と難民支援活動を実施しているNGOで構成する連合体。

『南』の子ども支援NGO能力強化5ヶ年計画

【委員】

主として『南』の権利を奪われた子どもに対する支援を行なう日本の国際協力NGOの役員・職員的能力強化を目的。年一回の国内及び海外研修を実施。

日本アフガンNGOネットワーク(JANN)

【会員】

アフガンで活動する日本のNGOが参加。アフ

ガニスタンの政治、治安、復興問題の理解を深めることを目的とする。

International NGO Meeting

【会員】(在ラオス)

ラオスで活動する国際・ローカルNGOを中心としたネットワーク。情報交換や業務調整などを実施。分野別の分科会もある。

International NGO Education Meeting

【会員】(在ラオス)

ラオスで教育に関わるNGOを中心とするネットワーク。情報交換や援助調整会議への提言づくり、業務調整などを実施。

Japanese NGO Network Meeting(JANM)

【会員】(在ラオス)

ラオスで活動する日本の団体のネットワーク。勉強会、情報交換を実施。

NGO Education Partnership(NEP)

【会員】(在カンボジア)

カンボジアで教育に関わるNGOを中心とするネットワーク。情報交換や政府への提言づくり、業務調整などを実施。

Cooperation Committee for Cambodia(CCC)

【会員】(在カンボジア)

カンボジアで活動する国際・ローカルNGOを中心としたネットワーク。情報交換や政府への提言づくりなどを実施。分野別の分科会もある。

Japanese NGO Network in Cambodia(JNNC)

【世話人】(在カンボジア)

カンボジアで活動する日本のNGO職員のネットワーク。月例会、勉強会、情報交換や政府への提言づくりなどを実施。

Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand(CCSOPT)(難民支援事業調整委員会)

【会員】(在タイ)

ミャンマー難民支援に携わるNGO間の情報交換、事業の調整が目的。またNGOを代表してタイ政府、国連機関、大使館との調整も実施。17団体参加。

お知らせ

寄付金について、税の優遇措置が受けられます

社団法人シャント国際ボランティア会は、外務省より「特定公益増進法人」として認定されています。これにより、ご寄付いただいた方は所得税法および法人税法にもとづき、寄付金控除の適用を受けることができます。

詳細については、当会又はお近くの税務署か税理士にご相談下さい。



社団法人 シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

URL <http://www.sva.or.jp> E-mail info@sva.or.jp

- タイ事務所 ●カンボジア事務所 ●ラオス事務所
- ミャンマー難民事業事務所 ●アフガニスタン事務所

発行 2005年5月1日 定価400円

発行人 松永然道

デザイン・印刷 東京コロニー